

## ACDK における嚢胞内出血と悪性腫瘍の超音波画像

五仁会 元町HDクリニック 臨床検査部、同 臨床工学部\*、同 内科\*\*  
○田中和弘、清水 康、森上辰哉\*、申 曾洙\*\*

### 【はじめに】

慢性血液透析患者のスクリーニング検査として腹部超音波検査の有用性は、言うまでもない。萎縮した腎臓に数 mm～数 cm の多発した嚢胞がある後天性嚢胞性腎疾患 (ACDK) は、透析歴が長くなるほどその頻度は増加し悪性腫瘍との関連が問題となっている。ACDK はほとんどの場合、無症状であるがまれに嚢胞内に出血することがあり血尿や時には出血による急激な側腹部、腰背部痛を起こしたり、嚢胞内感染から痛みや発熱する場合もある。嚢胞内出血であれば保存的治療で経過観察となるが、その際超音波検査は手軽であり、また、悪性腫瘍との鑑別にも ACDK を超音波検査で経時変化をみることは望ましい。

今回、当院での過去の症例を検討し、若干の考察を加えて報告する。なお、当院の ACDK は、萎縮した腎に後天性かつ両側多発性に嚢胞ができる病態とし、腎萎縮は大きさやエコーレベルの上昇、腎実質の菲薄化、皮質と髄質の境界不明瞭化から総合的に判定し、嚢胞数が一腎に 3 個以上で両腎に認めるものとしている。

### 【症例 1】 64 才、女性、透析歴 15 年。原疾患は慢性腎盂腎炎。

排尿時に肉眼でもわかる血尿が数日間続き、その後血尿の程度は治まる。  
超音波検査で左腎に嚢胞内ポリープ様腫瘍と嚢胞内にやや淡い充実性腫瘍を認めた。  
MRI 検査では以前 ACDK のみであったが前回と比較し左腎嚢胞径の明らかな拡大を認め、嚢胞内出血を疑い経過観察となる。  
4 ヶ月後の超音波検査では左腎嚢胞内ポリープ様腫瘍と新たな充実性腫瘍を認めたが、以前見られたやや淡い充実性腫瘍は確認できなかった。  
しかし 6 ヶ月後には、嚢胞内にやや淡い充実性腫瘍を認め、嚢胞内出血の再燃と考えられた。MRI 検査でも嚢胞径の拡大から嚢胞内出血を active に繰り返しているとし、出血のリスク回避と腫瘍マーカー上昇 (BFP:168) の為、手術適応となり腹腔鏡下にて左腎を摘除した。摘出した腎の病理所見は、Renal cell carcinoma (RCC) clear cell type pT1a であった。

【症例 2】 42 才、女性、透析歴 18 年。原疾患は慢性糸球体腎炎。

嘔吐と腹痛で超音波検査を実施。右側腹部の圧痛部位に一致する右腎にモザイクパターンの充実性腫瘍を認めた。CT 検査では、嚢胞内 density の増強と小結石を認めたが、結石による痛みとは断定できなかった。発症 2 日後、4 日後、2 週間後の超音波検査で充実性腫瘍の内部エコーが徐々に cystic に変化し、半年後には嚢胞自体も消失した。それ以後新たに充実性腫瘍は認めず嚢胞内出血と考えられた。

【症例 3】 66 才、男性、透析歴 31 年。原疾患は慢性糸球体腎炎。

超音波検査で左腎に充実性腫瘍を認めるも CT 検査では明かな悪性所見はなく、リンパ節の腫脹と考え経過観察となる。3 ヶ月後、6 ヶ月後の超音波検査で著変はなかったが、1 年後に 5 mm 程度のサイズアップを認めた。再度の単純 CT では明かな悪性所見はなく、造影 CT 検査で RCC を疑い腹腔鏡下にて左腎を摘除した。摘出した腎の病理所見は、Renal cell carcinoma (RCC) clear cell type pT1a であった。

【考察】

慢性血液透析患者の ACDK は透析歴 10 年以上の患者で 90%以上という報告もあり、めずらしいものではない。スクリーニングでは ACDK の経過を漠然と追いがちであるが、悪性腫瘍合併の検索に注意を注ぎ、その際、最大径の嚢胞の位置を目印にするなどして全体像をよく把握し観察すれば、突然の血尿や腹痛の原因検索に重要なサインとなり、超音波検査は有用であった。

また、嚢胞内にモザイクパターンやポリープ様腫瘍を認めた場合は、経過観察の間隔を短くし積極的に悪性腫瘍の除外診断をするべきと考えられた。

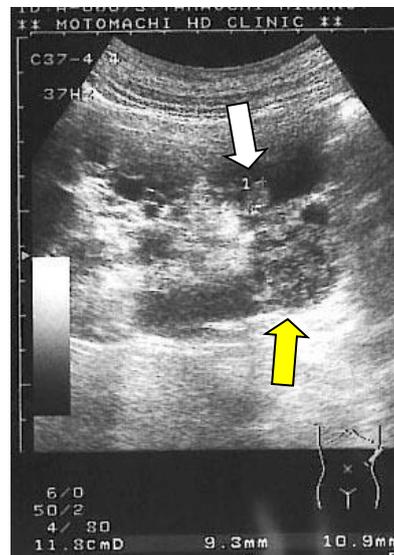
【まとめ】

慢性血液透析患者の ACDK は超音波検査で経過観察し、嚢胞内出血や悪性腫瘍を疑う場合は嚢胞の内部エコーなどを短期間で経時的に注意深く観察すれば診断、治療に役立つと考えた。

# 症例 1

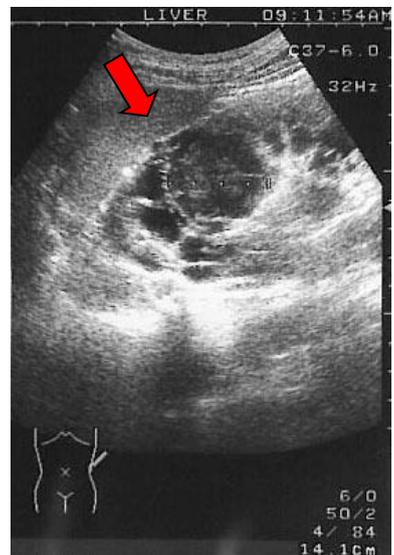
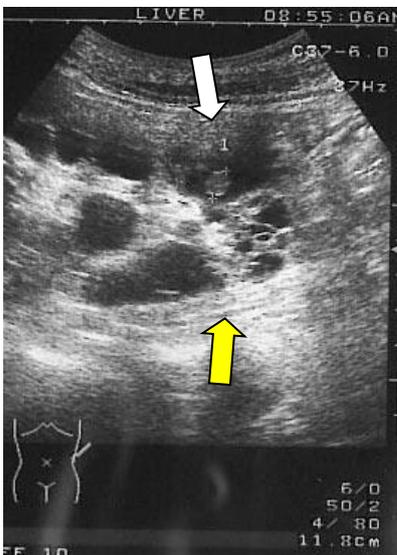
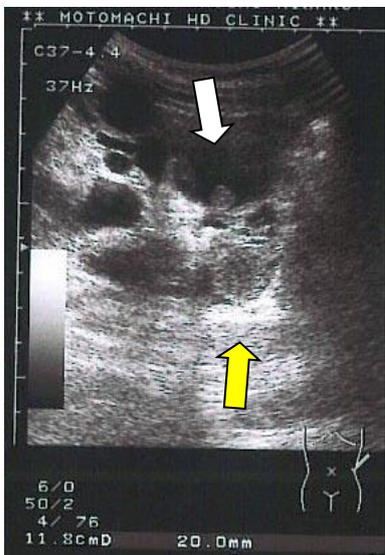
発症時

3ヶ月後



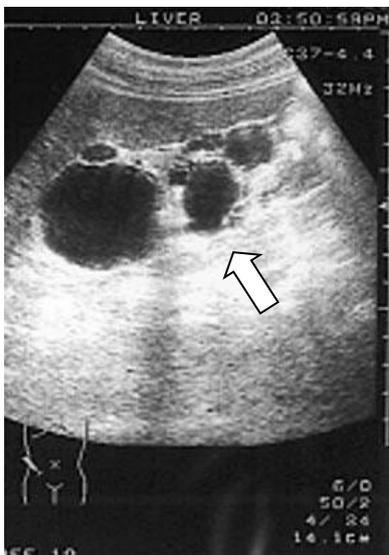
4ヶ月後

6ヶ月後

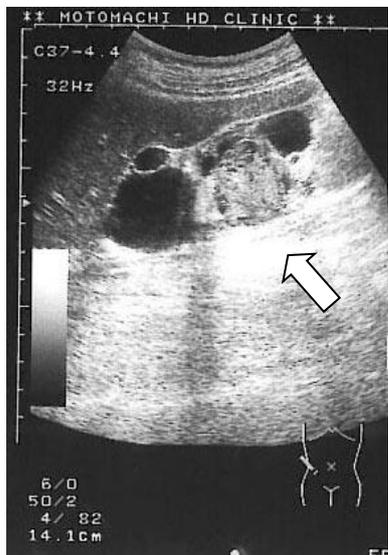


## 症例 2

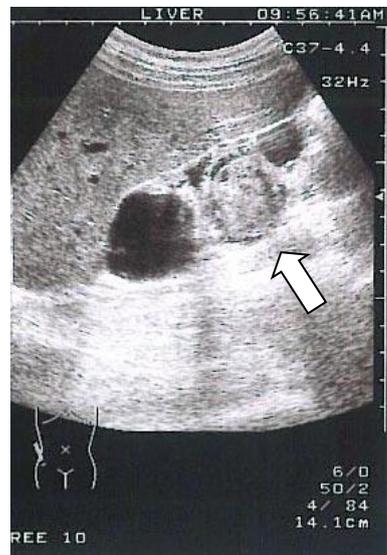
発症前



2日後



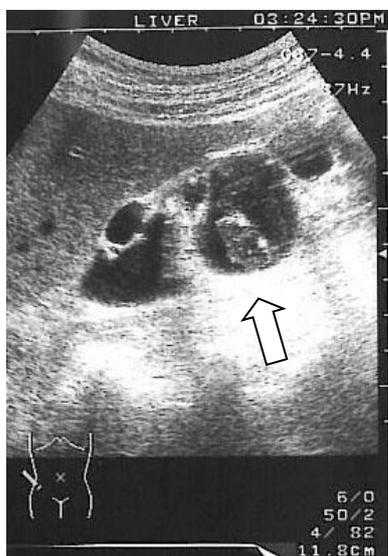
4日後



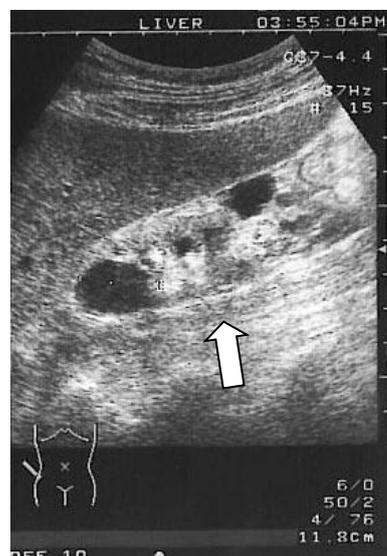
2週間後



3週間後



6ヶ月後



### 症例 3

2004.7



2005.8



2005.10

